

新型インフルエンザの基礎知識

新型インフルエンザと季節性インフルエンザとどう違うの？

インフルエンザは、インフルエンザウイルスによる発熱、頭痛、関節痛などを主体とする呼吸器感染症です。主に原因となるウイルスはA型とB型です。

なかでも、A型ウイルス[A(H1N1)亜型(ソ連型)とA(H3N2)亜型(香港型)]は毎年のように流行します。一般に、これらのウイルスを季節性インフルエンザウイルスといい、過去数十年にわたり流行を繰り返しています。

一方、新型インフルエンザウイルスは、動物の世界(トリやブタなど)で循環していたウイルスがヒトからヒトに感染(ヒト-ヒト感染)が可能になったウイルスをいいます。

2009年に出現した新型インフルエンザウイルス[A(H1N1)pdm virus]は、ブタからヒト-ヒト感染を引き起こすようになったと考えられています。ほとんどの人は、このウイルスに対し、免疫(抗体)を持っていないので、今後さらに大きな流行が起こる可能性があります。

また、新型ウイルスは、少ないながらも肺炎など、重篤な合併症を引き起こす可能性があります。

インフルエンザの感染経路

新型インフルエンザを含むインフルエンザの感染経路は主に2つです。

①飛沫感染
咳やくしゃみをしたときに排泄されるウイルスを含む飛沫(あるいは飛沫核)を鼻や口から吸い込むことにより感染します。

②接触感染
ウイルスを含む飛沫や鼻水などが付着している机、ドアノブ、スイッチなどに触れた後、手から口や鼻を経由して間接的に感染します。

飛沫は1~2m飛散すると考えられています。

今回の新型インフルエンザウイルスの特性と症状は？

今回の新型インフルエンザウイルスの病原性は季節性インフルエンザと同程度と考えられています。

主な症状は、季節性インフルエンザと同様(発熱や咳など)でほとんどの症例は回復しています。

しかし、妊婦あるいはぜんそく、慢性心疾患、肥満者や免疫不全患者などの基礎疾患をもつ人は重症化する場合があります。

また、新型インフルエンザは健康な人でも、肺炎などを今までの季節性インフルエンザより併発しやすい可能性があります。

抗インフルエンザウイルス剤とワクチン

現在、新型インフルエンザを含むインフルエンザには、タミフルあるいはリレンザが治療薬として使われています。また、これらの薬剤は、濃厚感染後の発症予防にも有効であると考えられています。

また、季節性インフルエンザと同様に新型インフルエンザワクチンの開発および実用化が進んでいます。このワクチンの有効性や副反応については、季節性インフルエンザワクチンと同程度と考えられています。



ここまでやろう 新型インフルエンザ 予防・対策

全旅連の対応マニュアルから

全国旅館生活衛生同業組合連合会(全旅連、佐藤信幸会長)はこのほど、今年度厚生委員会事業として、旅館・ホテル向け新型インフルエンザ対応マニュアル「ここまでやろう 新型インフルエンザ予防・対策」を作成、都道府県旅館組合を通して全国約1万8000軒の組合員に配布した。マニュアルでは、新型インフルエンザの基礎知識に始まり、手洗い、うがい、咳(せき)エチケットな

ど従業員が心掛けたい感染予防対策、館内での患者発生時に旅館・ホテルが取るべき行動などを分かりやすく記している。ここでは、その要旨を紹介する。なお、全旅連ではマニュアルの追加注文を1冊100円(送料、税込み)で受け付けている。注文は10冊以上が条件。申し込みは全旅連ホームページ「宿ネット」(<http://www.yadonet.ne.jp/>)で。

旅館・ホテル従業員の個人衛生②

うがい

うがいは呼吸器感染症の感染予防のために行われている対策のひとつです。海外ではあまりなじみがありませんが、右記のことが期待できます。

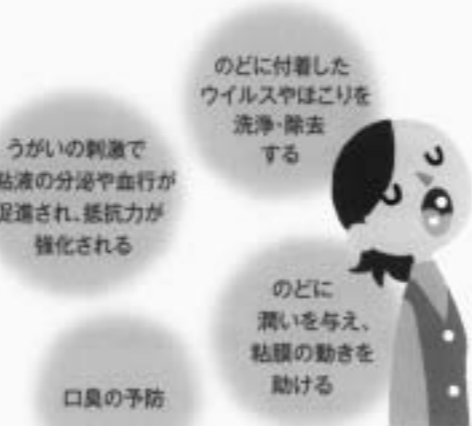
咳エチケット

咳エチケットとは、かぜやインフルエンザのように、咳やくしゃみなどによって排泄される病原体を他人にうつさないようにするための対策です。新型インフルエンザのような呼吸器感染症は、感染拡大防止のために咳エチケットを行うことが重要であると考えられています。

マスクについて

感染者がマスクを着用することで、咳・くしゃみの飛沫拡散を防ぐ効果が期待できます。また、健康者の感染防止にもある程度有効であると考えられます。医療従事者など、濃厚感染の可能性があるときには、密閉性が高いマスク[N95マスク(防じんマスクDS2規格以上)]を着用することもあります。通常の場合は、サージカルマスクで十分であると考えられます。

うがい



旅館・ホテル従業員の個人衛生①

感染予防の基本

日常生活の中では、誰がどんな感染症を持っているか見た目だけでは判断することができないため、「誰も何らかの感染症を持っているかもしれない」と考え、日頃から感染防止対策を取り入れることが必要です。日常の対策としては、手洗い、手指消毒、うがい、咳エチケットなどにとどまらず、物品や環境の衛生対策も必要と考えられます。

さらに、基礎疾患、高齢者あるいは免疫力が低下している方は、インフルエンザなどの呼吸器感染症にかりやすくなるため、日常的な健康管理も重要です。

また、新型インフルエンザが流行しているときは、感染の拡大を防止し、感染機会をできるだけ少なくするため、このような対応を心がけることが必要であると思われます。

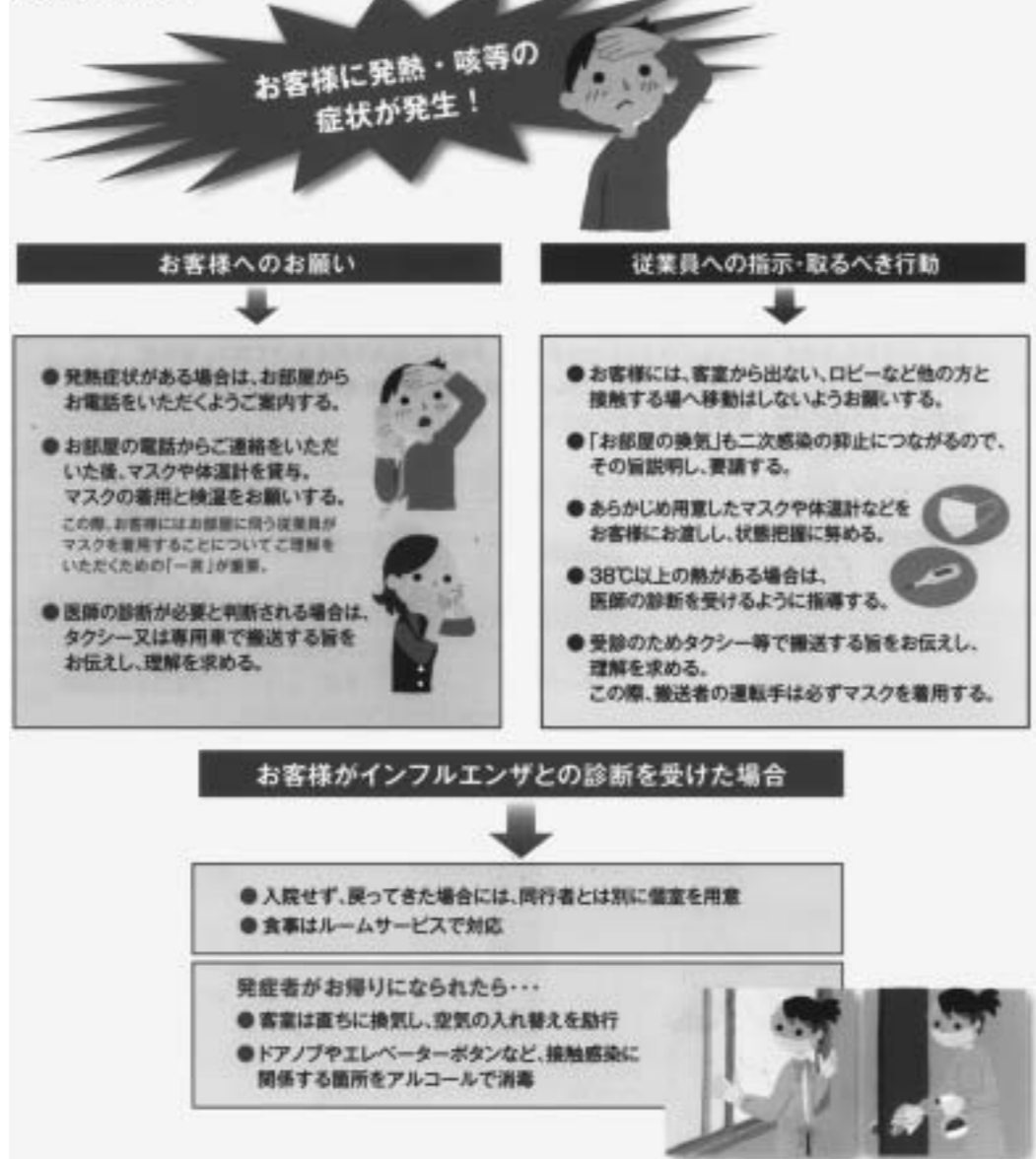
手指衛生

多くの病原体は、手を介して伝播されるため(接触感染)、手指衛生は接触感染予防の最も重要な手段であると考えられます。



宿泊客発症旅館の事例に学ぶ

発生時の対応



発症時の環境衛生管理

物品・環境の衛生

咳やくしゃみによって環境中に放出あるいは物品に付着したウイルスなどの病原体は、ある一定期間、感染性を保つと考えられています。前述したように、病原体に汚染された物品は感染の原因となる可能性があります。そのため、これらの洗浄・消毒は重要であると思われます。

特に、手でよく触る物品(手すり、ドアノブ、電灯のスイッチなど)は、咳やくしゃみ、あるいは手によって病原体に汚染される可能性があるため、確実な洗浄・消毒により清潔にしておくことが大切です。新型インフルエンザウイルスについても、下記消毒方法で不活化(殺滅)が可能と考えられます。

なお、いずれの方法も、ほこりなどのヨゴレが付着している場合には洗浄剤を用いてヨゴレを除去してから消毒しなくてはなりません。また、これらの作業の際には作業員自身の感染防止のため、手袋やマスクなどの個人防護具を着用すべきです。



インフルエンザウイルスに有効な消毒方法(例)

- 80~100度の熱水消毒
- 0.05~0.5%次亜塩素酸ナトリウムによる清拭または30分間の浸漬(臭いと漂白作用、金属腐食などに注意)
- 消毒用エタノールもしくは70%イソプロパノールでの清拭・浸漬